

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520309

研究課題名(和文) 日記・手記・作品に見る動乱の西部 カンザスの女性たち

研究課題名(英文) The Turbulent Years in the American West: From the Diaries and Documents Written by the Women in Kansas

研究代表者

黛 道子 (MAYUZUMI, MICHIKO)

順天堂大学・公立大学の部局等・准教授

研究者番号：30331391

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：アメリカ西部の開拓期については、従来、政治的、経済的な視点から西漸運動や先住民問題などが論じられることが多かった。また、西部劇に描かれるような「男の世界」と捉えられ、女性の実情は長らく見えないままであった。

本研究では、西漸運動と人種を巡る南北対立の最前線となっていた1850年代のカンザス州に焦点を絞り、女性たちの日記・手記などから"Bleeding Kansas"と呼ばれた動乱の時代に何を考え、何を求めたかを読み取ろうと試みた。そこに見えたのは、彼女たちの困難に立ち向かう強さ、より良い世界を求める情熱、制約の中で自らの可能性を広げる忍耐であった。

研究成果の概要(英文)：About the pioneer days of the American West, a lot of research on the westward movement and the problem of native Americans has been done from the political and economic point of view. Otherwise, as in the western films, the west was considered as a violent place for men and women should be protected by men.

In this research the focus is on Kansas in the 1850's, when Kansas was in the center of the westward movement and the controversial discussion about slavery. During the turbulent years called "Bleeding Kansas," what did the women in Kansas think and what did they seek for? Through reading their diaries and personal notes, the following characteristics have been found: the strength in difficulty, the enthusiasm for better world, and the patience in broadening their possibilities in spite of the social limitations

研究分野：アメリカ文学・文化

キーワード：アメリカ西部 西部開拓 Bleeding Kansas 南北戦争 女性参政権運動

## 1. 研究開始当初の背景

近年、歴史や文学を女性の視点から読み直すようになり、それ以前には表に現れなかった陰の部分にも光が当たるようになった。社会の中心であった男性の視点からだけでは知りえなかった社会の実情が明らかにされ、歴史や文学の認識も多くの面で修正を余儀なくされた。

19世紀のアメリカ西部に最初に興味を持ったのは、野口啓子、山口ヨシ子編著『ポーと雑誌文学 マガジニストのアメリカ』(彩流社、2001年)に「『グレアムズ・マガジン』の女性寄稿者たち」(239-51)の章を執筆したことがきっかけであった。ポーの編集した同誌に寄稿した3人の女性寄稿者(Francis Osgood, Lydia Sigourney, Ann Stephens)に当時の出版事情の変遷過程をみたものであるが、その中で、当時、大量に出版されていた廉価版の読み物、ダイム・ノベルで扱われた西部ないしはフロンティアの題材について言及した。

この研究を通して、ダイム・ノベルの第1作、Ann Stephensの *Malaeska* (1860)など女性作家による作品は家庭劇であり、センチメンタルではあっても、登場人物の心理や感情など、内面への関心がみられるのに対し、大ベストセラーとなった第2作、Edward Ellisの *Seth Jones* に代表される男性作家の作品はドタバタの活劇調のものが多く、派手な展開や行動が中心であった。この2作品の比較から、ヒーロー像の違いを考察して、まとめたのが、佐々木みよ子編『ヒーローから読み直すアメリカ文学』(勁草書房、2001年)に発表した拙著、「因習に囚われた男たち スティーブンス『マラエスカ』など」(192-209)である。これらの作品に示された男性作家と女性作家の描き方の違いから、西部開拓に男女それぞれが求めたもの、とらえたものには大きな差があることにあらためて気づき、西部の歴史や社会を女性の視点でとらえ直す必要を認識した。

そのような認識のもとに、野口啓子、山口ヨシ子編著『アメリカ文学にみる女性と仕事 ハウスキーパーからワーキングガールまで』(彩流社、2006年)では「荒野に夢をかけた女たち ローラ・インガルス・ワイルダー『小さな家』シリーズ」(51-71)を執筆し、過酷な自然との闘い、開拓地における家事の意味や価値の変化、厳しい生活を克服することから得る自信、「お針子」や教師として働く主人公が体験した困難や生きがいなどを、女性と仕事との関わりという同書のテーマに沿って論じた。

西部における「女性と仕事」のテーマをさらに深める意味で、2010年には、19世紀当時、多くのハードルを越え、厳しい女性への偏見と闘った存在として、女性医師ベセニア・オーウェンズ・アディア(1840-1926)を研究の対象に選び、その手記(Bethenia Owens-Adair, Dr. Owens-Adair: Some of

Her Life Experiences, 1906)を中心に、当時の女性医師に課せられた社会的制約新に挑戦し、新たな生き方を模索した女性の反省を考察し、その成果を宮津・黛・中村共著「アメリカン・デモクラシーの実現をめざして：19世紀変革期のパイオニア女性」の中の1章、「ベセニア・オーウェンズ＝アディア：西部における女性医師の挑戦」(『医療看護研究』7巻1号、21-34)を執筆した。

以上の経過を経て、女性の視点から見た西部の歴史や社会への関心がさらに深まり、南北戦争へと繋がる歴史的な大転換点となったこの時代を、西部の女性という視点から考えてみたいと思うにいたった。

## 2. 研究の目的

アメリカ西部の開拓期については、政治的、経済的な視点から西漸運動や先住民問題などが論じられることが多かった。文化的にはカウボーイやガンマンが活躍する西部劇を運だが、女性が主役となることはなく、夫に付き従って移住した従順な妻や男性の庇護を必要とする美しくか弱い女性として登場することが多く、女性の実情は長らく見えないままであった。

当時の女性は財産権などもなく、中産階級の女性が就ける職業は、文筆業や家庭教師などに限られ、家庭以外に生きる場所を見つけることは、ほぼ不可能であった。そのような状況下で、自らの可能性を信じ、困難を越えて医師となった女性たちが現れ、その多くが西部で活躍したことは注目に値する。Chris Enss, *The Doctor Wore Petticoats: Women Physicians of the Old West* には東部では開業が叶わなかった女性医師たちが、西部に可能性を求めたことが読み取れる。ここから、西部が女性の権利向上を考える上で、重要なポイントのひとつであることが示唆された。

一方、女性による権利の主張は Lucretia Mott, Elizabeth Cady Stanton などを中心に、第1回の The National Women's Rights Convention が 1851 年に開始され、参政権を始めとして女性の地位向上のためのさまざまな主張が展開された。しかし、このような運動は、まだ、一部の進歩的な女性に限られており、多くは夫に従属する存在として生きるほかなかった。

「女性の時代」と言われた 20 世紀には、さまざまな角度から女性と社会の関わりが問い直されたが、西部にはなかなか関心が及ばず、本格的に西部の女性の研究が始まったのは 20 世紀も終盤になってからであった。そのような流れを受け、従来、児童文学として読まれ、評価されてきた Laura Ingalls Wilder の Little House Series (全 9 巻、1932-1971) など、新たに研究的な視点から考察されるようになった。著者がモデルと言われる主人公の Laura が開拓民の娘及び母として生きた半生を描いた物語は、女性の職業や西部開拓における役割を考える上で、

新たな側面を提示することとなった。

こうした流れを受けて、日常の記録や手紙などの価値が見直され、それまで顧みられることのなかった開拓民の女性の手記や日記・作品などが次々に発掘され、出版され、この分野への注目も少しずつ高まった。

1981年に出版されたJoana L. Strattonの*Pioneer Women: Voices from the Kansas Frontier* (New York: Simon, 1981)はカンザス州の開拓に携わった女性たちの声を集めた記録である。19世紀の社会では女性は「家庭の天使」とされ、良き妻、良き母として生きることを求められたが、夫とともに西部の開拓に関わり、厳しい自然環境、物資の不足、疫病などの困難を越えて、荒野に家を築いた女性たちは、次第に自分への自信と信頼を深めていった。これらの記録は歴史の教科書には現れることのない女性が自立する過程を示しており、手記・日記の価値を再認識させるものであった。

こうして、従来、研究の遅れていたこの分野への関心も高まり、2011年に、Nina Baym, *Women Writers of the American West, 1933-1927* (Chicago: U of Il. P)が出版され、西部の女性たちが書いた膨大な書籍や記録の存在が明らかになった。

今後、研究するべき課題は多いが、本研究では、Kansas州に地域を限定した。その理由は、Kansasが19世紀のアメリカが直面した主要な2つの事象 西部への領土拡大と奴隷制を巡る南北対立の最前線にあったためである。その接点で起きた”Bleeding Kansas”と呼ばれた一連の動乱は、当時、国論を二分していた南北の対立を端的に反映したもので、Kansasはまさに国家的な議論の中心にあった。

本研究では、この当時、Kansasに身を置いた女性たちの日記・手記・作品から動乱の時代を読み取っていく。歴史の転換点にあったKansasの女性たちが何を考え、何を求め、この時代とどう関わったかを考察することで、これまでの研究ではとらえきれなかった19世紀の実像がより鮮明になるのではないだろうか。これらの女性たちによる記述から、歴史や社会の表舞台に登場することのなかった女性たちが、動乱の時代にどんな社会を模索し、何を見出したのかを明らかにしたい。

### 3. 研究の方法

本研究では近年、やっと発掘・出版された西部の女性による日記・手記・作品を対象にした研究で、資料もようやく出版されるようになったばかりである。また、研究例も少ない。したがって研究すること自体にも意味があり、また、地域をKansasに限定し、定点観測的な視点を導入した方法も他にはない特色と言って良いだろう。

研究は以下のように進めた。

#### 1) 文献収集

近年、少しずつ文献なども出版されるよう

にはなったものの、まだ、十分とは言えず、今後、新たに発掘されるものにも常に目を配ることが必要である。また、アメリカ各地にはhistorical societyや地域の大学があり、その土地の記録・資料を所蔵しており、同時に地方史の研究も行っていることから、今回は特にKansasのhistorical society (Topeka, KS)とThe University of Kansas (Lawrence, KS)での文献調査を行った。

また、インターネットによるThe Library of Congress, The Smithsonian Institute, The New York Public Libraryなどの文献も調査した。日本国内では、同志社大学図書館に依頼し、収集されている各種文献の調査をさせていただいた。

#### 2) 歴史知識の補強と資料収集

南北戦争へと向かうこの時代については、ひと通りの知識はあるものの、まだ不足している部分も多いので、歴史に関する書籍も入手し、これらを通して当時の時代の動きを把握し直した。

また、当時を知るために、Kansasで文献調査をした際に、付近のさまざまな史跡や町を見学した。実際に訪問したのは、Topekaの州議会議事堂(工事中で内部は見学不可能)、Missouri州から来た奴隷制擁護派が襲撃した奴隷制廃止論者の拠点、Free State HotelがあったLawrenceの街、”Bleeding Kansas”の中心的人物、John Brownが活動の拠点とした家が保存されているJohn Brown Museumも訪れた。

さらにChicagoのHistorical Societyでもこの時代に関連する展示を見学することができ、より理解が深まった。

#### 3) 文献を読む

文献を収集する一方、入手できるものを少しずつ読み進めた。主として読んだのはHannah Ropes, *Six Months in Kansas: By a Lady*(1859)、Sara Robinson, *Kansas: Its Interior and Exterior Life*(1856)、*The Responsibilities of Woman / A Speech of Mrs. C. L. H. Nichols, at the Woman's Rights Convention, Worcester, October 15, 1851*である。

そのほか、Hannah Ropesに関連して、Ropesの*Civil War Nurse: The Diary and Letters of Hannah Ropes*やLouisa May Alcottの*Hospital Sketches*(1863)を参考にした。また、最近、ようやくその存在が知られるようになったClarina Nicholsについては、Dian Eickhoff, *Revolutionary Heart: The Life of Clarina Nichols and Pioneering Crusade for Women's Right*(2006)やMarylin S. Blackwell & Kristen T. Oertel, *Frontier Feminist: Clarina Howard Nichols and the Politics of Motherhood*(2010)なども参考にした。

#### 4) 西部/中西部の作家や作品及び学術情報収集

西部/中西部に関しては、まだ、情報が少

ないので、同時代の作家や作品、また学会情報には注目していきたいと考えた。

Kansas では女性作家ではないが、Lyman Frank Baum の Kansas の大平原を出発点とした童話、*The Wonderful Wizard of Oz* も Kansas の歴史・社会状況と併せて読み直してみる必要を感じた。

また、最近、西部の文学を研究する学会 (The Western Literature Association / アメリカ) の存在を知り、第 50 回大会 (2015) に出席し、多くの情報や示唆を得た。

#### 4. 研究成果

情報や先行研究の少ない分野なので、さまざまな文献を収集できたことも成果のひとつと言えるのではないかと考えている。現在、まだ未整理の部分がかなりあるが、今後、利用しやすい形で整理していく計画である。その他の研究成果は以下の通りである。

##### 1) 論文

本研究でテーマとした 19 世紀半ばの Kansas を考える上で、当該世紀後半に書かれた Kansas を舞台とした童話、Lyman Frank Baum の *The Wonderful Wizard of Oz* を読み直してみることにした。その成果を「新たな価値の創造 - ライマン・フランク・ボーム『オズの魔法使い』」のタイトルで論文にまとめた。

論文中では、大草原の描き方から時代の違いを論じている。開拓期には Laura Ingalls Wilder の *Little House on the Prairie* の中で主人公の Laura が、父の建てた丸木小屋に初めて入った日、「沈む夕陽の光が窓から差込み、家を金色の光で満たした」(119)と、平和な満ち足りた思いを語っている。一方、『オズ』では、同じカンザスの平原はまったく違った様相を示し、「あたりを見まわしても、灰色の大草原が広がっているばかりです。」という描写に始まり、干ばつで乾ききった土地は灰色でひび割れ、緑だった草も陽に焼かれ、どこもかしこも灰色の風景が広がる様子が語られる。灰色の風景は厳しい自然と生活に疲れた人の心を象徴しており、ここでは『大草原』に描かれた希望や喜びはもはや失われている。

19 世紀後半は「金ぴか時代」と呼ばれた汚職や賄賂が横行し、大資本が政治を牛耳った時代で、政治の無策、国際市場の変化、歴史的な大干ばつなどの原因で、西部の農業は大きな打撃を受け、不況の底に沈んだ。

しかし、オズの国にはカンザスが失ってしまった色が豊かに存在し、それぞれが本来の色を取り戻し、輝いているのである。畑や果樹園は緑に輝き、花が色とりどりに咲く美しい風景に灰色の世界から来たドロシーは思わず見とれてしまう。3 人のマンチキン帽子も衣服もブーツも青を身に着け、魔女は白づくめの服装である。黄色のレンガ道やすべてが緑のエメラルド・シティなど、色に関する描写は多い。オズの国はカンザスが失って

しまった色が豊かに存在し、それぞれが本来の色を取り戻し、輝いているのである。

それぞれが欠点を自覚していたカカシやブリキの木こりや臆病なライオンは、オズに願いを叶えてもらうが、実は最初から知恵や、やさしい心や勇気を持っていたことは明白である。彼らの問題は自分の力を自覚することができないことにあり、オズが彼らに与えたのは自分への信頼であった。人の心を読むことが巧みなオズは、一連の儀式を通じて彼らが一番必要としたものを与えている。古代の強力な魔法使いとは違い、人に本来の力を呼び覚まさせるところにオズの魔法の本質があると言えるだろう。

壮大な夢や無から有を生み出すような変化は望むべくもないが、現実の世界が行き詰ったとき、『オズ』の想像の世界は人やものの本来の姿を思い出させ、何が本当かを考えさせる。富や力が価値をもつ現実を離れ、自分の家や周囲の人を大切にするというシンプルな生き方を提示しているようにも思える。『オズ』の物語は時代の変遷を越え、新たな価値を創造した。

##### 2) 研究発表

研究計画に従い、文献を読み、結果をまとめて「動乱の時代に生きた Kansas の女性たち Hannah Ropes, Sara Robinson, Clarina Nichols」のタイトルで研究発表することになった (平成 28 年 7 月 9 日)。

1854 年に Kansas Nebraska Act が制定されて住民の投票により、自由州か奴隷州かを選択できることになったため、Kansas には北部からの奴隷制反対の移住者と、南部から流入した奴隷制擁護派の集団が衝突する事件が起こり、いわゆる "Bleeding Kansas" とされる動乱を招く結果となった。

Hannah Ropes は 1855 年、息子が移住者として Kansas に行くことになると、奴隷制反対運動に関わっていた Hannah も息子の元で同居することにした。Hannah Ropes, *Six Months in Kansas: By a Lady* の中には、気候の荒さや、虫やネズミに悩まされる日常、次々に病気で倒れる人々の様子が記録されているのと同時に、当時、たびたび奴隷擁護派による移住者の襲撃事件などもあり、人々はライフルやナイフを手放せない当時の緊迫した状況も描かれている。

彼女が書いた Charles Sumner への手紙には Kansas で日々、脅威にさらされる移住者への保護を訴え、奴隷制反対への支持を求める強い情熱が感じられる。

Sara Robinson は初代 Kansas 州知事、Charles Robinson の妻で、夫妻とも奴隷制反対運動に深く携わった。Sara は Charles が反逆罪で投獄されると Sara はその文才を活かし、*Kansas: Its Interior and Exterior Life* を著し、"Bleeding Kansas" と呼ばれた当時のさまざまな事件や出来事を記し、夫の置かれた状況が不当なものであることを訴えた。奴隷制擁護派の強力なバックボーンとなっ

た書籍である。

この本の中には、美しい Kansas の自然の描写もあり、Sara の卓越した感性も同時に感じることができる。

Clarina Nichols は初期のフェミニストの一人であり、家庭を守る役割を否定することはなく、妻や母としての生き方は大切に考えていた。しかし、女性は母として教育に関わるべきと考え、学校教育への関わりにも進歩的な考えを持っていた。

特に後に、Kansas 憲法となった Wyandotte 憲法に女性の財産権と親権を認める条項を入れたのは彼女の功績であった。

これらの女性たちの記録や活動の跡を振り返ると、動乱の時代に自らの意思に従い、勇気を持って時代に立ち向かった女性たち姿を見ることができる。

また、「大草原の夢と現実：19 世紀の Kansas」もすでに発表が決定しているが、19 世紀の時代の変化を女性たちの記録や書籍と、これまでに発表した Wilder の "Little House" シリーズや『オズ』などの作品を重ね合わせ、大草原に起きた変化と女性たちの生き方について語ることにしている。

今後、さらにこのテーマで研究を続け、論文にまとめていくつもりである。また、研究途上で知った同時代の Indiana の作家、Gene Stratton Porter についても、今後、研究を進めていきたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

黛 道子、「新たな価値の創造 ライマン・フランク・ボーム『オズの魔法使い』」(査読有り) 順天堂大学医療看護学部『医療看護研究』第 11 巻第 1 号、平成 26 年 10 月、p.1 ~ p.7

〔学会発表〕(計 2 件)

黛 道子、「動乱の時代を生きた Kansas の女性たち Hannah Ropes, Sara Robinson, Clarina Nichols」, 津田塾大学言語文化研究所、東京都小平市、平成 28 年 7 月 9 日(日程決定)

黛 道子、「大草原の夢と現実：19 世紀の Kansas」, アメリカ文学会北海道支部研究談話会、札幌、平成 28 年 9 月 10 日(日程決定)

〔図書〕(計 0 件)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

黛 道子 (MAYUZUMI, Michiko)

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：30331391